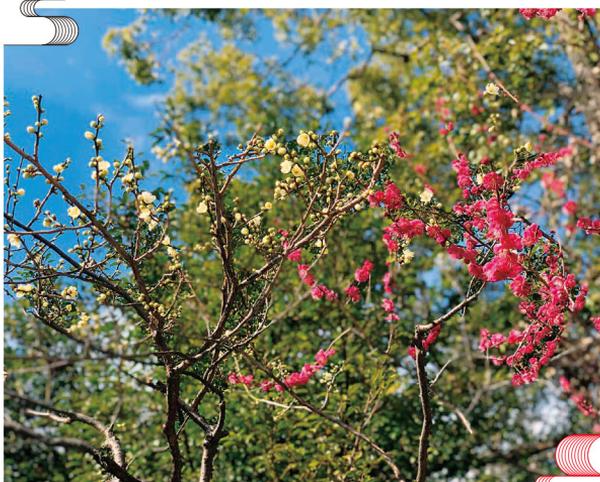


あかしまん

わが町、わが店、この道一歩。出逢いとコミュニケーション あかい新聞店ホームページ <http://www.akai-shinbun.net> <発行所>あかい新聞店 武蔵野/加多敷武蔵野字舎 177番地 TEL:0669-72-0356 青森店/青森市南町4丁目177番地 TEL:0172-35-2861

2025年(令和7年)2月1日(日曜日) 第438号
1886(明治19)年創業、地域とともに139年。
HCCP Human Communication Partners
半田中央印刷株式会社
〒475-0032 愛知県半田市港千町1番地(21)
TEL 0569-29-2529(内) FAX 0569-29-4300
ローマ字で
お読みください
PTEC Group



よんひゃくじのよめがたり
四
百
字
の
京
が
た
り
ひいさま 藤間勘萃
ひいさま 藤間勘萃

NO.010
東風吹かば匂い起こせよ梅の花
主人なしとて春な忘れそ

北野天満宮は言わずと知れた梅の名所。二万坪の境内に、菅原道真公ゆかりの梅の木が立ち並ぶ。その数、ゆうに千五百本。道真公の月命日(二月二十五日)に行われる「梅花祭り」では、上七軒の芸舞妓による野点を楽しみ、梅苑をそぞろ歩いて、五十種類をこえる甘美な梅の香りを堪能できる。

本殿前に咲き誇る、ひときわ美しい、枝ぶりの「紅和魂梅へにわこんぼし」。この御神木には、道真公の飛梅伝説が。
時の左大臣の計略で、大宰府へと追われた道真公。京都を離れる時、邸内の梅の花に歌を詠んだ。

春の東風が吹いたら、また美しい花を咲かせておくれ。主がいなくても、春に花咲くのをお忘れくれるなよ。

これを感じ入った梅の花が、京の都から太宰府へと、一夜のうちに飛んでいったという伝説である。
遠くへ行った主を慕い、矢も楯もたまらず主のもとへ飛んで行ったのが白梅。

遠くへ去った主の言いつけを守り、主なき庭で毎年花を咲かせたのが紅梅。
愛しい人が遠くへ行ってしまう時、白梅か紅梅か、果たしてどちらに做うのがいいものか。

ひいさま (松根裕美)
京都生まれ、京都育ち。
学生時代は日英を問わず朗読や作文に多く携わり、高校時代、東洋大学専攻科茶道体験論文コンテストにて優秀賞受賞、第18回萬葉千家ハーフイセセミナーに招待。京都私学ESS選抜主催英語検定大会優勝、英語討論大会優勝。大学時代、世界遺産「下鴨神社」で十二世王初孫を学び、名月茶室で舞や華歌、現在が梅がたりの舞活動に就く。一般社団法人さかもとのカラーデザイナー協会認定講師として、きもの色こぼしに関する各種レッスンやコンサールディングを、名古屋を中心に各地で開催。きものカラーワークやセルフ和製レッスンなど、地方や海外からも生徒が訪れる人気講座を運営。
インスタグラム → @hiinomatsune

藤間勘萃
1958年に名古屋で生まれて、1977年にデビュー。
日本舞踏家(宗家 藤間流 名秋) / 宗師としてNHK「白梅美術館」や「花の舞・花の家」の裏巻司(東京大学名誉教授)との「以心伝心・以身体伝心」、久田舞一郎(小沢大 大倉高15代宗家)との「秋月の真」など放送や舞台に数多く携わり、形ノ舞道家として「世界デザイン博覧会」の「サー・銀座音楽、名古屋市芸術祭音楽家賞」や、福西三郎音楽祭、合奏曲「節拍観音大動舞」(萩井丸、奥西守所蔵)、「恋と」(赤井山 阿彌陀寺所蔵)などを手掛ける。名古屋音楽大学音楽学部 作曲学科卒業、日本福祉大学 社会福祉学部を経て、現在、東洋学園大学 教育学部にて講師。



ひいさま 藤間勘萃 幻燈館
『梅花祭り』動画を YouTube でご覧いただけます。
QRコードを読み取っていただくか、『藤間梅花』で検索して下さい。

ひいさま 藤間勘萃 の
ホームページはこちら

